

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 30日から31日にかけて、前線が日本の東から日本の南へのび、低気圧が日本の南から東・西日本付近に進む。高気圧が、オホーツク海を南下する。
- 6月1日から2日にかけて、低気圧が日本の東を北東に進み、前線が日本の南を東進する。高気圧が東シナ海から日本付近に移動する。
- 3日は、東シナ海から西日本南岸付近に前線がのびる。

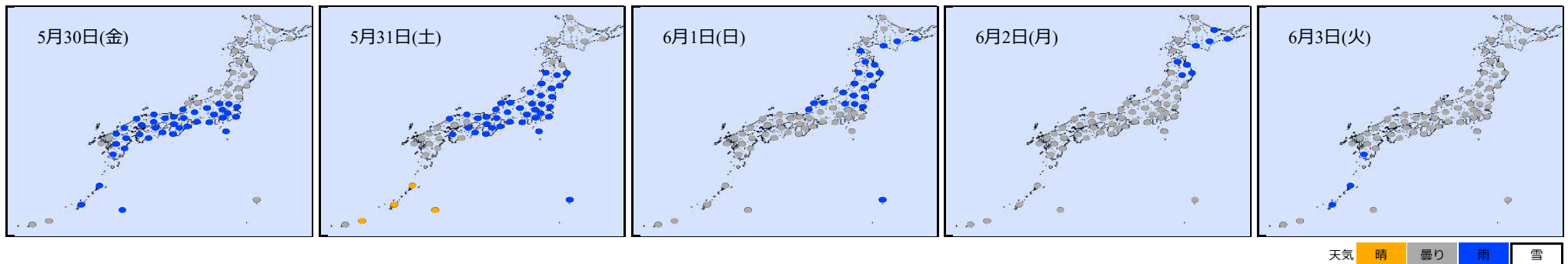
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 30日から31日にかけて、上空に寒気を伴った低気圧が日本の南から東・西日本付近に進む。低気圧を回る暖かく湿った空気の影響で、沖縄・奄美や伊豆諸島では大雨となり、低気圧の動向等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

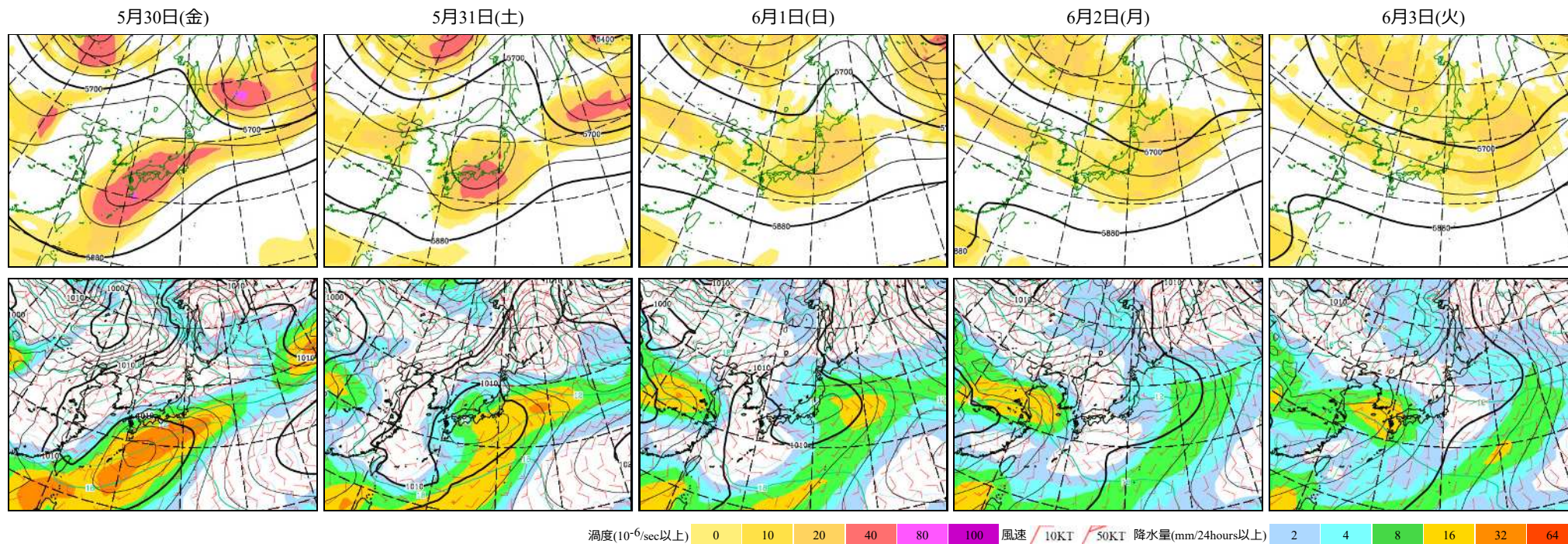
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

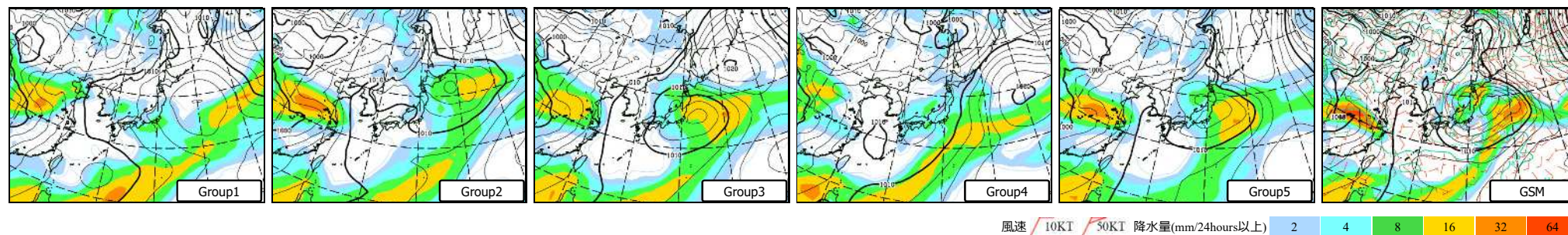


- 北日本は、雲が広がりやすく、31日から6月2日にかけて雨の降る所がある。
- 東日本は、雲が広がりやすく、30日から1日にかけて雨の降る所がある。
- 西日本は、雲が広がりやすく、30日から31日にかけてと3日に雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、晴れる所もあるが雲が広がりやすく、30日と3日に雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月1日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはないが、30日から31日に日本付近を進む寒冷渦がやや北に拡大した。地上の気圧配置の予想は、寒冷渦に対応する低気圧の位置がやや北寄りになった。
- 31日頃まではモデル間の差は小さいが、6月1日以降は初期値変わりが大きいモデルもあり、モデル間の差も大きくなっている。
- 1日の低気圧の位置については、モデルによって三陸沖からオホーツク海まで予想にバラつきがある。ENSは各モデルの予想に近いメンバーの他、低気圧を本州付近や日本海に予想するメンバーもあり、不確実性が大きくなっている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- 30日から6月1日にかけて日本海を進む低気圧については、不確実性が大きく予想が変わりやすくなっている。低気圧の動向によって天気が大きく変わる可能性があることに留意。